

R.I. District2610 . ROTARY CLUB OF UOZU

魚津ロータリークラブ 会報誌

2010 - 2011 年度 R 会長 レイ・クリンギンスミス

2010---2011 年度 魚津 R.C 会長 宮本 汎



第 2753 回 例会報告

2010年 11月 12日

ゲストならびにビジター紹介 本日はありません

誕生祝 本日はありません

会長挨拶 日本では、水が余っていて「当たり前」という感じですが、みなさん7月のパキスタンの大洪水を覚えていますか。かなり犠牲者も出ていて、世界の気候が激しく変動しています。この真水というのはいかに貴重であるか、海外旅行をするとつくづく感じます。食料をつくるのにも、また産業を興すのにも「水」が必要です。水が不足したために滅んだ文明が、メソポタミアや中国文明です。アンデスの文明にも水が関与しています。日本はやがて水をタンカーに積んで中国へ持っていくという時代が来るかも知れません。中国は今、長江から黄河へ水を流していますが、長江の水が汚染されていて環境汚染になり、それも失敗になっています。とにかく中国は水への対策を取っているところであり、水は貴重な資源です。今後ともみなさんと一緒になって水について考えていきましょう！



幹事報告 日本青年会議所北信越地区富山ブロック協議会より 広報誌「OASIS」が届いています。

青少年育成魚津市民会議より 子供・若者育成支援強調月間特別研修会の開催について

11月例会案内 11月 19日 ゲスト卓話 魚津鉄道建設所所長 梶田 覚 様 (ホテルサンルート)

11月 26日 卓話 武隈 君 (ホテルサンルート)

11月 SAA補助 大島君、坪井君、山澤君、 よろしく願いいたします。

出席報告 本日の出席者 28名 出席率 82.35% 欠席者 6名

メイクアップ済み 愛宕君

2751回メイクアップ なし

2751回修正出席率 91.17% 91.17%

ニコニコボックス 辻(浩)君 金沢国税局長表彰を受けました
松田君 何となく忙しく楽しく
中川君 11/3 鴨川に「鮭を呼ぶ会」が、今年度創設された「ふるさと教育富山賞」を受賞しました。それを祝うかのように11/6鮭が一匹鴨川に遡上していました。

委員会報告

「ロータリーの友」のポイント説明 広報委員会 小浜裕子さん

今月はロータリー財団の月間で、最初にR会長のメッセージがあります。11/1～11/7に各地のインターアクターに聞いた内容が載っています。最後の28ページに2610地区のことが簡単に紹介されています。縦書きのところでは、「共存共鳴ドイツと日本の違うところ」で音楽家の木村俊光さんがドイツに留学した時のことが書いてあります。



4ページの「低くなった女性の声、高くなった男性の声」の内容では、最近では男性の方が逆に高くなっており、筋肉と脳の発達と声の高さが人間と小鳥は通じるところがあるのかもしれない」と紹介してあります。日本では学校で音楽を習うので音痴はいないが、ドイツでは習わないので音痴が多いことも記載してあります。みなさんゆっくりと読んで下さい。

次年度会長の 寺崎明博さん

来年度の幹事を松田さんが快く引き受けられましたので、みなさんよろしく願いいたします。



次年度幹事の 松田栄明さん

長い間「逃げの一手」でしたので、一発で引き受けました。やはり楽しいかなければならない、としみじみと感じています。70才になると本気で自分の時間を公に提供しなければいけないと感じています。残念なことには時間貧乏なので、いかに調整しながら仕事と両立していくかがこれからの課題だと思います。一年は楽しく明るく穏やかなロータリーにしたいと思いますので、ご協力をお願いいたします。



野澤幹事より

10/31の地区大会において、ロータリー在籍40年の杉野さん、30年の辻(浩)さんに祈念の楯が届いていますので、宮本会長より贈呈してもらいます。

魚津市の褒章を大城さん、国の保護士? の件で生駒さんが受賞されていますので、魚津ロータリークラブより祝電を贈ってあります。



本日の卓話

「私の少年時代のふるさと」 根岸 朗さん

私のふるすとは、上毛の三山、赤城山 榛名山 妙義山を近くに戴く風光明媚な所 群馬県前橋市」です。冬はスキー・スケート、春から夏にかけて手軽なピクニックや峻険な妙義山のロッククライミングなど、登山には手頃な山や湖などがあります。榛名山の榛名湖では冬は氷が40センチの厚さに張り詰め、車が行き交う賑やかさ、わかさぎ釣りをする人、スケートをする人などがいて、三山共に「温泉」があるし、雪が消えれば「ゴルフ場」がたくさんあって賑わいます。私の育った頃を思い出すと上州名物の空っ風が吹いて、電線がビュウビュウ唸り声をあげ、洗濯物は板昆布のようにガンガン凍ります。手押しポンプの井戸は凍りつき、沸かしたお湯を凍ったポンプに注いで凍りを溶かし、そして水をくみ上げることから一日が始まるのです。しかし子供たちは元気で、夕方になると餓鬼大将がバケツを叩いて子供たちの家の前を回り、アスファルトの上でスケートをして遊んだりしました。また、子供たちが悪いことをすると、近所の大人が人の子も吾の子も同じように首たまを捕まえて「叱ってくれた」良い時代でした。



「バカといえるもの」 辻 英晴さん

本日は、私自身「バカと言える『卓球』」の話をしてみます。卓球の起源はイギリスと言われ、貴族の遊びがスポーツに発展したと考えられています。日本に初めて卓球が伝来したのは1902年だそうです。「テーブルテニス」と言われるように、卓球の元は「テニス」であり、テニスが雨でできず退屈だったので室内のテーブルの上でテニスの真似事をしたのが始まりであると言われています。



しかし、そもそもテニスの元となったポーム?というスポーツは屋内競技でありました。2000年からボールの大きさは38ミリから40ミリになりました。これによってボールの空気抵抗が増し、従来よりラリーが続くようになりました。しかしその一方で回転がかけにくくなり、またラバーが回転の影響を受けにくくなったためにカット型や前人?速攻型のような戦い方は難しくなっています。2001年に従来の21点制から11点制に変更され、サービスも5本ずつの交替から2本ずつの交替に変更されました。また、2002年にはサービス時にボールを隠す行為が完全に禁止されました。ボールは直径40ミリ、重さ2.7グラムのセルロイドまたは同一のプラスチック製で、色は白またはオレンジでなければなりません。しかし「ラージボール卓球」では直径44ミリ、重さ2.2から2.4グラムと規定されています。つまり一般的な卓球である公式卓球のボールよりも、ラージボール卓球のボールの方が大きいですが軽い。つまりボールが大きく、空気抵抗の影響が増大するため、ボールの速度・回転量が減り、ラリーが続きやすくなるという特徴があります。日本では高齢者でも手軽に出来る生涯スポーツとして、主に中高年に人気があり多くの大会が開催されています。

卓球の盛んな国は中国です。卓球は他のスポーツに比べ、プレイする条件・ルールの理解・スキル・場所・道具・プレイヤーの確保など、を満たすことが容易なため老若男女を問わず親しみやすく観戦スポーツとしてではなく、実践スポーツとして広く日本人に愛されています。私は中学から卓球を始めて、今も続けています。できれば60台になっても足腰が弱らないためにも卓球バカであり続けたいと思っています。みなさんも「バカといえるものは生涯「バカ」であり続けましょう。

以上